

2024年4-6月期GDP速報（1次速報値）

～ ポイント解説 ～

令和6年8月15日

内閣府経済社会総合研究所

国民経済計算部

[1] GDP成長率

2024年4-6月期のGDP成長率（季節調整済前期比）は、1次速報値において、実質は0.8%（年率3.1%）と2四半期ぶりのプラス成長となった。名目は1.8%（年率7.4%）となった。

[2] GDPの内外需別の寄与度

実質GDP成長率（季節調整済前期比）に対する内外需別の寄与度を見ると、国内需要（内需）は0.9%と5四半期ぶりのプラス寄与となった。財貨・サービスの純輸出（外需）は0.1%と2四半期連続のマイナス寄与となった。

[3] 需要項目別の動向¹

（1）民間需要の動向

民間最終消費支出については、実質1.0%増と5四半期ぶりの増加となった。自動車、衣服、外食等が増加に寄与したとみられる。

民間住宅については、実質1.6%増と4四半期ぶりの増加となった。

民間企業設備については、実質0.9%増と2四半期ぶりの増加となった。供給側推計の基礎となる総固定資本形成の動きを見ると、自動車等への支出が増加したとみられる。

民間在庫変動のGDP寄与度については、実質0.1%となった。実質の在庫残高が2024年1-3月期から4-6月期にかけて増加幅を縮小したことから（2024年1-3月期2.1兆円、4-6月期1.5兆円）その変化分（0.6兆円）がGDP成長率に対してマイナスに寄与した²。

¹ 季節調整済前期比について解説。

² 実額はいずれも実質季節調整値（年率表示）。

(2) 公的需要の動向

政府最終消費支出については、実質 0.1%増と 2 四半期連続の増加となった。
公的固定資本形成については、実質 4.5%増と 4 四半期ぶりの増加となった。
公的在庫変動の GDP 寄与度は、実質 0.0%となった。

(3) 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出については、実質 1.4%増と 2 四半期ぶりの増加となった。自動車や証券手数料等が増加に寄与したとみられる。

財貨・サービスの輸入については、実質 1.7%増と 2 四半期ぶりの増加となった。電子計算機や証券手数料等が増加に寄与したとみられる。

[4] デフレーターの動向

GDP デフレーターについては、季節調整済前期比で 1.0%となった。国内需要デフレーターは前期比 1.0%となった。外需デフレーターはプラスに寄与した。

GDP デフレーターの前年同期比については、3.0%となった。

[参考]

[1] G N I (国民総所得) の動向

2024 年 4 - 6 月期の実質 G N I 成長率は、季節調整済前期比で 1.3% (年率 5.5%) と 2 四半期ぶりのプラスとなった³。海外からの実質純所得 (寄与度 0.6%)、交易利得 (寄与度 0.0%) とともにプラス寄与となった。名目 G N I 成長率については、季節調整済前期比で 2.3% (年率 9.5%) となった⁴。

[2] 雇用者報酬の動向

2024 年 4 - 6 月期の名目雇用者報酬は、前年同期比で 3.8% 増、季節調整済前期比で 1.4% 増となった。前年同期比については、一人当たり賃金、雇用者数がともに増加に寄与した。実質雇用者報酬については、前年同期比で 0.8% 増、季節調整済前期比で 0.8% 増となった⁵。

(以上)

³ 実質 G N I = 実質 G D P + 海外からの実質純所得 + 交易利得

⁴ 名目 G N I = 名目 G D P + 海外からの純所得

⁵ 実質雇用者報酬は名目雇用者報酬を家計最終消費支出 (除く持ち家の帰属家賃及び FISIM) デフレーターで除して算出した参考値。